

競技連盟主催による大学スポーツ活性化の取り組み①：東京六大学野球ゼミナールの実践から

浅井, 玲子 / Asai, Reiko

(出版者 / Publisher)

法政大学スポーツ研究センター

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学スポーツ研究センター紀要 / 法政大学スポーツ研究センター紀要

(号 / Number)

36

(開始ページ / Start Page)

51

(終了ページ / End Page)

54

(発行年 / Year)

2018-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00014557>

競技連盟主催による大学スポーツ活性化の取り組み① —東京六大学野球ゼミナールの実践から—

Effort to activate university sports by league.
—Based on the practice of Tokyo Big6 Seminar—

浅井 玲子 (法政大学兼任講師)
Reiko Asai

要 旨

本研究では、競技連盟主催の東京六大学野球ゼミナールの取り組みにおいて、大学スポーツの資源を活用し、学生がスポーツを支え、活性化する体験が、文部科学省が示す職業的発達や経済産業省が求める社会人基礎力の育成に寄与する可能性を検証することを目的とした。対象者は当該ゼミナールの1期生11名であり、尺度として「改訂版社会人基礎力尺度」を使用し、2年間の取り組みによって当該ゼミナールに参加しない大学生活と比較した場合に参加者がどのような力をつけることが期待されるか、「社会人基礎力」という視点から検証した。

当該ゼミナールでの活動と、その他の大学生活での社会人基礎力獲得に対する期待を比較するために、回答結果を対応のあるt検定を用いて分析した結果、ゼミナールの活動に参加した学生たちは、当該ゼミナールでの活動が社会人基礎力の獲得にポジティブな影響を与えると考えていることが示された。当該ゼミナールでの活動において、大学スポーツの現状、スポーツ界の現状を調査、分析し、企画の実現性を考慮するプロセスを経て提案を行うこと、また、自身の所属とは異なる大学の学生や多くの社会人との活動を通じて、社会人基礎力の獲得や向上への手応えを参加者が得ていることが示された結果であった。

キーワード：大学スポーツ、社会人基礎力、大学野球

1. はじめに

東京六大学野球連盟は、早稲田・慶應義塾・明治・法政・東京・立教の6大学で構成され、創設初試合から90年以上の歴史を持つ大学野球界最古のリーグである。創設以来、連盟の運営は部員である学生たちを中心として行われてきている。我が国においても大学スポーツの在り方をめぐる様々な考察がなされている現状のなかで、東京六大学野球でも2025年に迎える連盟100周年を前に、リーグ活性化を目指す様々な取り組みがなされている。

その取り組みのひとつとして、「東京六大学野球ゼミナール」(以下「当該ゼミナール」とする)が2016年春に開講した。これは、一般財団法人東京六大学野球連盟主催で、東京六大学各校に所属する大学生(本研究の対象となっている初年次の募集は活動開始時に3年生である学生のみであった)の中から、スポーツビジネスや東京六大学野球活性化、スポーツに関わる企画立案・運営などに関心を持つ対象者を募り、2年間のプログラムの機会を参加費無料で提供する取り組みである。対象者は、体育会野球部の部員に限らず(初年次は参加者全員が体育会各部には所属していなかった)、広く学生たちが東京六大学野球という資源を活用し学ぶ中で、進路決定や卒業後の進路において自分を活かす力を身につけること、また、学生たちの力でリーグの活性化に取り組むことを目指す

ものである。

文部科学省は、2004年のキャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議において、「職業的発達に関わる能力」の育成を提言している。また、2006年には経済産業省が「社会人基礎力」という概念を提唱しているが、これは「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な能力」のことであり、これを育成の対象として捉えることの重要性が示されている。

大学生活においてこのような能力の育成が求められている現状をふまえ、大学スポーツの資源を活用し、学生がスポーツを支え、活性化する体験が、文部科学省が示す職業的発達や経済産業省が求める社会人基礎力の育成に寄与する可能性を検証したい。

本研究では、当該ゼミナールの2年間の取り組みによって、当該ゼミナールに参加しない大学生活と比較した場合に参加者がどのような力をつけることが期待されるか、「社会人基礎力」という視点から検証することを目的とする。

2. 方法

＜東京六大学野球ゼミナールの活動概要＞

「東京六大学野球活性化施策の実施」をメインテーマとし、そのために求められる体験と学びを、神宮球場での現場実習

ならびにスポーツビジネスに関する講義とふりかえりを通して得る。ゼミナール1年目には、東京六大学野球リーグ戦運営をサポートする体験や、講義を通じて、東京六大学野球をベースにしたスポーツやビジネスの現状を学ぶ。そのプロセスの中で、東京六大学野球がより活性化するための施策についての仮説を立て、実現可能性を検討し、提案のための準備を行う。1年目の1月（ゼミナール加入から10ヶ月目）に、東京六大学野球連盟に向けて企画のプレゼンを行い、実施が決定した施策を、2年目に実際に運営する。修了時には、修了研究としてそれぞれの取り組みの効果の検証を行い、報告会を実施する。

なお、当該ゼミの修了にあたっては、各大学の単位振替などの措置は行われない。

【第1期生参加者】

当該ゼミナール第1期生参加者は、東京六大学各校のうち、慶應義塾・明治・法政・立教大学に所属する3年生、11名（男子9名：女子2名）であった。

【主な活動内容】

本研究の対象となる1期生の主な活動内容は以下の通りであった。

ゼミナール1年目（大学3年次）

春・秋学期 通年

- 東京六大学野球、スポーツビジネスに関する講義
春学期・秋学期 通算10回
講師：東京六大学野球部卒業生を外部講師として招聘
講義テーマ：東京六大学野球の歴史、スポーツマーケティング、スポンサーシップ、スポーツビジネス、スポーツ教育論、スポーツメディア、スポーツマスコミュニケーション、スポーツマーケティング、アスリートマネジメント
- 神宮球場での実習
リーグ戦運営方法の学習や、アンケート調査、周辺の施設や環境の調査を通じて、リーグの現状の理解、分析を行い課題とその解決のための施策についての仮説を立てた。
※1年目の神宮球場での活動、講義において、毎回「振り返りシート」として報告書を提出・共有した。

秋学期

- 「東京六大学野球がより活性化するための施策」について全員で取り組む施策を決定。
そのための調査・分析・検討をリーグ戦開催中に重ねて行い、ミーティングにてコンセンサスを得た。さらに、

企画の実現可能性を検証し、実行するための準備を行った後、リーグ戦終了後に東京六大学野球連盟へ企画書を提出。

プレゼンを行い全7企画うち3企画の実施の許可を得た。

ゼミナール2年目（大学4年次）

- 3年次に決定した施策をリーグ戦にて実際に運営した。

【実際にプレゼンにて承認され、運営した企画】

① SNS動画プロジェクト

連盟公式SNSアカウントを作成し、試合速報や選手、チーム、イベント情報等の配信を行った。
配信コンテンツ（選手紹介動画や特集企画）の取材、編集、投稿や、試合中の速報Twitterの運営などをゼミナール生で行った。

② 神宮フォトジェニックスタジアム

リーグ戦開催中、各校選手の等身大フォトパネルを作成し、各校公式ユニフォームの着用ができるフォトブースを設置した。また、春季リーグ戦では学生限定企画として、Tシャツ無料配布や試合後のグラウンド開放企画を開催した。フォトパネルやTシャツに関する業者との交渉、デザイン、ブースの運営、無料配布時のイベント運営、各イベントの広報、イベントに関する準備から当日の運営まで全てをゼミナール生が行った。

③ Tokyo Big6 Festival 2017

秋季リーグ戦開幕週に、神宮球場で六校合同の学園祭を開催する企画で、各校の学園祭における名物グルメの出店と、大学サークルによる開幕式前のグラウンドパフォーマンスを実施した。参加サークルの選定、交渉、収支予算の決定や、イベントに必要な各業者との交渉、広報などを行った。また、スポンサー協賛企業を募り、交渉を行い、スポンサー企業への対応もゼミナール生によって行われた。

○修了研究

活動を踏まえて、効果を検証・分析したうえで発表資料を作成し、1月に修了発表を実施した。

<質問紙による調査時期・対象>

2018年1月初旬に、当該ゼミナールでの2年間の活動を修了した1期生（大学4年生）11名（男性9名：女性2名）に対して、質問紙による調査を行った。

<質問紙>

西道(2011)が作成した「改訂版社会人基礎力尺度」を使用した。これは、40問の質問項目により社会人基礎力を測定するもので「前に踏み出す力(8項目)」「考え抜く力(11項目)」

表 1 社会人基礎力尺度（全体平均）の比較

大学生生活において			ゼミナールにおいて			t値	
n	平均	SD	n	平均	SD		
11	124	25.95	11	169.27	15.07	5.12	**

** p<.01, * p<.05, † p<.10

「伝える力 (9 項目)」「チームで働く力 (12 項目)」の 4 つの因子からなる。

被験者は、各質問に対して「(東京六大学野球ゼミナール以外の) 大学生生活において」「東京六大学野球ゼミナールにおいて」それぞれの質問項目に記載されている力が、どの程度身につく(あるいは身につかない)と感じたかについて、「全く身につかない」から「とても身につく」までの 5 件法で回答した。

当該ゼミナールでの活動と、その他の大学生生活での社会人基礎力獲得に対する期待を比較するために、回答結果を対応のある t 検定を用いて分析した。

3. 結果・考察

表 1 に示す通り、当該ゼミナールでの活動において獲得できると考える項目は、当該ゼミナール以外の大学生生活の場合と比較して、それぞれの全体の平均値において、1%水準で統計的に優位に高いことが認められた。このことから、ゼミナールの活動に参加した学生たちは、当該ゼミナールでの活動が社会人基礎力の獲得にポジティブな影響を与えていることが示された。

さらに、項目ごとに比較した結果は表 2 の通りである。40 問の項目のうち、17 項目に 1%水準で、13 項目に 5%水準で優位差が、6 項目に 10%水準で優位な差の傾向が認められた。優位差が認められなかった項目は 4 項目であった。

優位差が認められなかった 4 項目は、4 つの因子のうち「考え抜く力」で 2 項目、「チームで働く力」で 2 項目であった。「前に踏み出す力」、「伝える力」の因子においては、統計的に差が得られない項目はなかった。

これらのことから、当該ゼミナールでの活動は、その活動がない大学生生活と比して、参加者に社会人基礎力の獲得、向上の機会となる可能性が非常に高いことが示された。

特に、「前に踏み出す力」、「伝える力」の因子においては、その傾向が顕著であった。

当該ゼミナールでの活動において、大学スポーツの現状、スポーツ界の現状を調査、分析し、企画の実現性を考慮するプロセスを経て提案を行うこと、また、自身の所属とは異なる

大学の学生や多くの社会人との活動を通じて、社会人基礎力の獲得や向上への手応えを参加者が得ていることが示された結果だと考えられる。

4. 課題と今後の展望

本研究において得られた結果が、実際の社会人としての生活にどのように反映されるのか、引き続き調査を行う必要があると考えている。また、ゼミナール加入時のデータと、修了時のデータの比較や、データ数の蓄積を進めることも必要である。なお、本研究では、当該ゼミナールが参加者に与える影響について検討したが、主催競技団体や大学、社会に与える影響についても検討を進めていきたい。

5. まとめ

本研究では、東京六大学野球ゼミナールの活動が参加学生の社会人基礎力の育成に与える影響を、「社会人基礎力尺度」を用いて検証した。

その結果、当該ゼミナールでの活動が、社会人として大学を巣立つ学生に対する準備の場として期待できることが示される結果であった。

6. 謝辞

本研究にあたりご協力を頂きました、東京六大学野球連盟、東京六大学野球活性化委員会、ならびに株式会社マスターズスポーツマネジメント 古内義明様に感謝申し上げます。

参考文献

- 経済産業省 (2006) 社会人基礎力に関する研究会—中間取りまとめ—
 文部科学省 (2004) キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書—児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てるために—
 西道実 (2011) 社会人基礎力の測定に関する尺度構成の試み—
 プール学院大学研究紀要 第 51 号 217-228

表2 社会人基礎力尺度
各項目について

質問項目	大学生活において			ゼミナールにおいて			t値	p
	n	平均	SD	n	平均	SD		
1 指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む力	11	3.00	1.00	11	4.45	0.52	4.28	**
2 自分の果たすべき役割と責任を自覚し、積極的に取り組む力	11	3.18	0.98	11	4.55	0.52	4.40	**
3 自分の個性や興味・関心にもとづいて、目の前の課題に取り組む力	11	3.73	0.65	11	4.18	0.6	1.84	†
4 既存のやり方やマニュアルにとらわれない考えを受け入れる力	11	3.73	0.65	11	4.00	0.89	2.45	*
5 固定観念にとらわれないで、相手の立場や意見を理解する力	11	3.00	1.18	11	4.00	0.63	2.80	*
6 提案するだけでなく、自ら目の前の対象を動かす力	11	2.64	1.21	11	4.64	0.50	5.24	**
7 失敗をおそれず、行動に移す力	11	3.27	1.1	11	4.27	0.79	2.24	*
8 自分に必要な情報や資料を的確に探し出す力	11	3.73	0.65	11	3.64	0.50	0.36	
9 得られた情報を、多面的・多角的に整理する力	11	3.36	1.12	11	3.82	0.87	1.61	
10 限られた時間の中で、情報や主張を、わかりやすく聞き手に伝える力	11	2.91	0.83	11	4.36	0.50	7.02	**
11 調べたことを伝える際に、効果的な手段やメディアを用いる力	11	2.64	1.03	11	4.09	1.04	3.73	**
12 情報を伝えるために、必要な創意工夫を加える力	11	3.18	1.40	11	4.00	0.63	2.17	†
13 学んだことや体験したことを、職業や生活とつなげて考える力	11	2.64	1.12	11	3.73	1.10	2.39	*
14 周りの人たちの仕事から、働く意義や大切さを理解する力	11	2.91	1.38	11	3.82	1.33	1.99	†
15 既存の発想にとらわれず、解決方法を工夫して考える力	11	2.45	0.82	11	4.27	0.65	6.9	**
16 未知の分野にまで思考を広げることで、新しい解決方法を導き出す力	11	2.55	0.93	11	3.64	1.03	3.83	**
17 あらゆる可能性を再検討することで、解決方法を再発見する力	11	2.55	0.82	11	4.64	0.67	6.64	**
18 自分の言いたいことを、わかりやすく、効果的に伝える力	11	3.36	0.92	11	4.45	0.52	3.18	**
19 自分の話に信頼感を持ってもらえるように話せる力	11	3.18	0.75	11	4.00	0.63	2.76	*
20 相手の立場に配慮しながら、自分の主張を伝える力	11	3.45	1.29	11	4.45	0.69	2.62	*
21 目標を達成するために周りの人に呼びかけて、周囲の人を動かす力	11	3.36	1.21	11	4.91	0.30	3.96	**
22 人を巻き込んで提案する力	11	2.82	1.08	11	4.64	0.67	4.54	**
23 立場や意見の異なる人に働きかけて、動かす力	11	2.82	0.75	11	4.73	0.47	7.62	**
24 話しやすい雰囲気をつくって、相手の意見を引き出す力	11	3.82	0.87	11	4.00	0.77	0.56	
25 相手の言動を観察し、意見や主張を正確に聞き取る力	11	3.64	1.03	11	4.09	0.94	1.84	†
26 自分が分からないことを聞き流さずに、相手に質問して確認する力	11	3.00	1.00	11	4.36	0.50	4.40	**
27 自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるように伝える力	11	3.36	0.81	11	4.27	0.65	2.89	*
28 相手にとって良くないことでも、自分の意見を誠実に伝える力	11	2.91	1.14	11	4.09	1.04	2.95	*
29 仲間うちにしか伝わらないような言葉で話したりせず、誰もが理解できるように話す力	11	2.91	0.94	11	4.09	0.94	3.99	**
30 グループの中で、自分がどんな役割を担えばよいのかを理解する力	11	3.64	1.21	11	4.45	0.52	2.04	†
31 お互いの個性や能力を理解し、それが発揮できるような関係を築く力	11	3.36	1.12	11	4.36	0.67	2.35	*
32 周囲の人々や物事との関係を理解するために積極的に働きかける力	11	2.91	1.14	11	4.18	0.98	2.97	*
33 正解不正解が曖昧な問題の解決策を見いだす力	11	2.73	1.01	11	4.36	0.92	4.22	**
34 見過ごされがちな問題を発見する力	11	2.45	1.21	11	3.82	0.75	2.78	*
35 目標を達成するために解決すべき問題を見つける力	11	3.09	1.04	11	4.45	0.69	4.89	**
36 目標を達成するための手順や方法について優先順位を決定する力	11	3.45	1.13	11	4.55	0.69	2.63	*
37 将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解して準備する力	11	3.09	1.30	11	4.09	0.83	1.85	†
38 課題を解決する複数のプロセスを明確にし、最善のプランを立案する力	11	2.82	1.40	11	4.27	0.79	3.53	**
39 状況に応じて、自らの発言や行動を適切に律する力	11	3.55	0.82	11	4.27	0.65	2.67	*
40 他者と共有する「空気」を読んで、自分の行動を修正できる力	11	3.73	1.10	11	4.27	0.65	1.60	

** p<.01, * p<.05, † p<.10